

「図書委員からのおすすめ本」

『青の数学』 玉城夕紀（著） 新潮社

数学に青春をささげた高校生の話です。文系の方が読んでも、わかるように書かれています。この本を読んでいくうちにどんどん数学の魅力に気づき、数学が好きになっていきます。数学が苦手な人にぜひ、おすすめしたいです。

『蘭陵王』 田中芳樹（著） 文藝春秋

蘭陵王と呼ばれた中国・北齊の皇族・高長恭を主題とした歴史小説。様々な戦術を使った戦いの場面がおすすめです。戦力差があっても恐れずに、戦いに勝利していく姿に注目してください。同じ中国を舞台としている三国志が好きな人なら、絶対にはまると思います。

『魔法使いマーリンの犬』
エリック・カーン・ゲイル（著） 評論社

魔法使いマーリンは、モルガナという少女を弟子にして、一緒に暮らしています。そこにはペットとして、ハナキキという犬もいました。ハナキキは賢い犬でした。ある夜、マーリンとモルガナが謎の集団に誘拐されてしまいました。彼らを救う為、ハナキキは追跡の旅に出発します。子どもの頃のアーサー王が出てきたり、伝説の剣、エクスカリバーが出てきたり、「アーサー王伝説」とリンクするのも、魅力です。とても、読みやすい本なので、本が苦手な人におすすめです。



2021年度天理高校ベスト貸出

天理高校1部、2部をあわせて集計（2021年4月～2022年3月末）し、貸出回数の多かった本を紹介します。昨年度の人気本は、「わたしの幸せな結婚」シリーズで、1位、2位、3位と上位を独占しています。内容は、和風ファンタジーシンデレラストory。この本は、コミックも発売されていて、書店では平積みされる人気作品です。毎年の統計から推測すると、「恋愛系図書」に人気があるのが、天高生の読書傾向だと思います。以下の本以外にも、今年度も皆さんに興味を持ってもらえるような本を選書したいと思います。本好きな人も、そうでない人も、ぜひ図書館に足を運んでください。お待ちしております。

順位	書名	著者名	出版者名	貸出回数
1	わたしの幸せな結婚 [1]	顎木 あくみ	KADOKAWA	20
2	わたしの幸せな結婚 2	顎木 あくみ	KADOKAWA	18
3	か「く」「し」「ご」「と」	住野 よる	新潮社	15
	わたしの幸せな結婚 3	顎木 あくみ	KADOKAWA	15
	告白（双葉文庫）	湊 かなえ	双葉社	15
	余命一年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話	森田 碧	ポプラ社	15

令和4年 4月 図書館だより

天理高校図書館



新学期が始まりました！！

★天理高校図書館は毎月「図書館だより」と「新着図書紹介」を発行しています。「図書館だより」では季節にあわせた特集や、話題の本を紹介しています。毎月届く新着図書はみなさんからのリクエスト本もたくさん含まれています。紹介された本はすべて図書館に置いていますので、気になった本があれば、ぜひ図書館に来て、手に取ってください。どこにあるかわからない時は、遠慮なく尋ねてください。（*_^*）

★「おめでとう、逢坂冬馬さん！本屋大賞受賞!!」 今年の本屋大賞は、逢坂冬馬さんの『同志少女よ、敵を撃て』に決まりました。

★「図書委員からのおすすめ本」特集を実施しています。昨年度の図書委員さんが、ぜひ読んでほしいと選んでくれた本とポップを展示中です。ぜひ見に来てくださいね。

★図書館は月～金は8時30分から19時まで 土は14時まで開館しています。休み時間も開館していますので、ちょっとした隙間時間もご利用いただけます。

本屋大賞は『同志少女よ、敵を撃て』

あいさかとうま
逢坂冬馬 著 早川書房 に決定

旧ソビエトとドイツによる「独ソ戦」のさなか、ドイツ軍の襲撃で母親と故郷を奪われた少女が狙撃兵となり、復しゅうを果たすために女性だけの狙撃隊の一員として過酷な戦場を生き抜く姿を描いた物語です。性別や出身、軍における立場の違いなどによる差別が常につきまとう登場人物たちの悩みや苦しみを巧みに表現し、女性たちが命の危険と隣合わせの戦場で戦い抜く姿を丁寧に描写しています。

逢坂冬馬さんは、埼玉県出身の36歳。大学を卒業後、会社員として働きながら執筆活動に取り組み、去年8月、今回の受賞作でもある「同志少女よ、敵を撃て」でアガサクリステイー賞を受賞してデビューしました。デビュー作での本屋大賞の受賞は、2009年の湊かなえさんに続いて2人目です。（NHK オンラインニュースより）



2021年 ノンフィクション本大賞決定!

<著者プロフィール>

上間陽子（うまようこ）1972年、沖縄県生まれ。琉球大学大学院教育学研究科教授。普天間基地の近くに住む。1990年代から2014年にかけて東京で、以降は沖縄で未成年の少女たちの支援・調査に携わる。

<作品紹介>

沖縄で未成年の少女たちの支援・調査に携わり、若年出産をした女性の調査を続ける著者によるエッセー集です。

「BOOK」データベースより

「幼い娘を抱えながら、理不尽な暴力に直面して、なおその目の光を失わない著者の姿は、連載中から大きな反響を呼びました。」



海をあげる

上間 陽子/筑摩書房